

令和5年度の復興基金事業の進め方

令和5年7月



1. 監修会議とワーキング部会の構成と役割

- 監修会議では、学識有識者7人のほか、関係機関を協力委員として配置。【設置要綱 第3条】
- 監修会議は、製作及び監修方針をとりまとめる場であり、各分野の監修に係る詳細事項については、ワーキング部会（以下「WG部会」という。）にて検討する。【設置要綱 第2条及び第6条】
- 各分野のWG部会には、技術継承を図るため、若手を1名程度含める。

首里城復興基金事業 監修会議 【年2回程度開催】

製作及び監修方針をとりまとめる場
(1)製作体制及び製作作業工程に関すること。
(2)監修方法及び監修頻度に関すること。

委員	歴史(琉球史)	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館 館長 (委員長)
	歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
	歴史(文化史)	波照間 永吉	沖縄県立芸術大学 名誉教授
	彫刻・焼物	西村 貞雄	琉球大学 名誉教授
	彫刻・焼物	波多野 泉	沖縄県立芸術大学 学長
	染 織	寺田 貴子	活水女子大学 特別専任教授
	瓦 類	与座 範弘	沖縄県立芸術大学 工芸専攻非常勤講師

※協力委員6人（県・国の関係部局より）

各分野の WG部会

彫刻WG部会

大龍柱・御差床など

西村 貞雄
波多野 泉
砂川 泰彦★
歴史系委員1名以上
製作技術者の代表

焼物WG部会

龍頭棟飾・鬼瓦

西村 貞雄
波多野 泉
森 達也★
歴史系委員1名以上
製作技術者の代表

瓦類WG部会

屋根瓦・磚など

与座 範弘
花城 可英★
歴史系委員1名以上
製作技術者の代表

染織WG部会

垂飾（瓔珞）

寺田 貴子
久保 智康★
歴史系委員1名以上
製作技術者の代表

【年2回程度+適宜開催】

製作や監修方法等の詳細検討

分野別の専門家（2～3人）、歴史系委員1人以上、製作技術者の代表で構成

※WG部会のみ参加の学識者は★

※WG部会のみ参加の学識者は★
所属は令和5年度時点更新

彫刻WG部会

専門分野	名前	所属
彫刻・焼物	西村 貞雄	琉球大学 名誉教授
彫刻・焼物	波多野 泉	沖縄県立芸術大学 学長
彫刻	砂川 泰彦★	沖縄県立芸術大学 教授
歴史(琉球史)	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館館長
歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
歴史(文化史)	波照間 永吉	沖縄県立芸術大学 名誉教授

焼物WG部会

専門分野	名前	所属
彫刻・焼物	西村 貞雄	琉球大学 名誉教授
彫刻・焼物	波多野 泉	沖縄県立芸術大学 学長
焼物	森 達也★	沖縄県立芸術大学 副学長
歴史(琉球史)	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館館長
歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
歴史(文化史)	波照間 永吉	沖縄県立芸術大学 名誉教授

瓦類WG部会

専門分野	名前	所属
瓦類	与座 範弘	沖縄県立芸術大学 工芸専攻非常勤講師
瓦類	花城 可英★	沖縄県工業技術センター 主任研究員
歴史(琉球史)	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館館長
歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
歴史(文化史)	波照間 永吉	沖縄県立芸術大学 名誉教授

染織WG部会

専門分野	名前	所属
染織	寺田 貴子	活水女子大学 特別専任教授
金工	久保 智康★	京都国立博物館 名誉館員
歴史(琉球史)	田名 真之	前沖縄県立博物館・美術館館長
歴史(漆工史)	安里 進	沖縄県立芸術大学 名誉教授
歴史(文化史)	波照間 永吉	沖縄県立芸術大学 名誉教授

3. 令和5年度の検討スケジュール

検討項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
事前レク		■											1～2回
製作及び監修方針の検討	■												
技術継承方法の検討	■												
監修会議				●7/20監修会議（通算：第3回）								●監修会議	2回
彫刻WG部会		●5/17	●6/27	●7月下旬					■				4～5回程度
焼物WG部会	●4/25		●6/19	●7月下旬				■					4～5回程度
瓦類WG部会		●5/12			●8月下旬				■				3回程度
染織WG部会				●8月上旬			■		■				3回程度
製作及び監修	■												

月	会議名	議論テーマ（案）
7月頃	第1回 監修会議	<ul style="list-style-type: none"> 監修会議及びWG部会の進め方の確認 製作体制について 各WG部会における検討状況の確認 首里城復興基金による材料調達の進捗状況の報告 情報発信に関する意見交換
4月～2月	各ワーキング部会	<ul style="list-style-type: none"> 各分野の制作物を対象に、進捗に合わせて製作・監修方針の詳細を検討
2月頃	第2回 監修会議	<ul style="list-style-type: none"> 各WG部会の検討動向、製作・監修事項の報告 次年度に向けた検討事項の確認 今回製作された記録、関係資料の活用や情報発信方法について

4. 本会議における検討内容

- 令和5年度の監修会議等の検討事項は、以下のとおり。

1. 製作・監修方針の検討【監修会議、WG部会】

- 首里城正殿の復元工程に合わせ、国から提供された仕様をもとに、首里城復元に係る制作物を円滑に製作できるように、監修会議・WG部会、その他関係者等との調整のもと、製作及び監修方針を検討する。
- 製作及び監修方針については、以下の事項等を中心に検討する予定。

①製作及び監修体制の検討 ②製作作業期間（作業工程）の再設定

➤製作体制について（資料2）

③引渡しまでの製作工程（原型等準備含む）の検討

➤WG部会別の検討状況を報告（資料3～6参照）

2. 次世代への継承【監修会議、WG部会】

- 本事業が将来の技術継承に資するよう、製作過程の記録撮影（動画・静止画）等を行うが、製作時に準備された下絵や石膏原型等を含め、製作記録の情報発信及び活用・保管方法について検討を行う。

➤現時点の記録撮影状況を踏まえ、情報発信の考え方について意見交換（資料8参照）

3. 製作・監修【WG部会】

- 製作作業期間を勘案の上、今年度に必要となる製作作業（下絵・石膏原型の作製、材料確認や試作を含む）及びその監修を行う。
- 監修については、各WG部会にて対応予定。

➤WG部会の検討状況にて報告（資料3～6参照）

4. 材料調達【監修会議では報告】

- 沖縄県首里城復興基金では、制作物の材料とあわせ、木材及び石材等の調達を行う。監修会議では、その状況を適宜報告する。

➤第2回監修会議(R5.3)以降の調達状況を報告（資料7参照）